

相産だより

誠実 創造 努力



第66回卒業証書授与式

2月25日(火)、第66回卒業証書授与式が執り行われました。前日までの寒波も過ぎ去り、明るい日差しがふりそそぐ春間近の日となりました。体育館には、12名の来賓のほか、保護者が臨席し、教員、在校生が卒業生の入場を待ち、スクリーンには3年間の思い出のビデオがBGMに乗って放映されました。9時55分、厳粛に卒業生184名が入場しました。最後の生徒が席に着き、10時から開式となりました。卒業証書授与では、担任が呼名し、生徒一人一人が元気に「はい」と応えて起立。高らかに響く担任の呼名と、それに答える184名の声が聴く者すべての心の中にも響きわたりました。



PTA会長の来賓祝辞では、生徒を見守り、ここまで支えてくれた教職員への感謝と、卒業生には、誰かに認められなくても、誰かと比較することなく、自分の気持ちと大切に向き合い、生きていくことが大切。そして欲は出さず、心からの気持ちと責任の持てる言葉が大切であり、当たり前で感謝できる人であって欲しいと述べられました。在校生代表の送辞で、2年生の柳田涼くんは、先輩が過ごした3年間を、自分の思い出とともに振り返りながら、その苦勞をねぎらいました。特に華やかな文化祭の裏で、それを支える人々の努力があるということ、そして成功を目指して多くの先輩が苦勞し、運営に努めたことを自分がその立場になって初めて知った、身をもって先輩の偉大さを実感できたということです。続いては、卒業生代表、池田龍祐くんが答辞を述べました。高校生活3年間という限られた時間が終わろうとする今を、とても恋しく感じていること、今の自分があるのは、先生はじめ多くの周囲の人のサポートのおかげであること、そして一番自分を支えてくれたのは、常に寄り添ってくれた家族のおかげであるという感謝の気持ちを述べました。そして、春に咲き誇る桜のように大きく開き、自信をもって成人としての一步を踏み出すことを誓いました。



その後、ピアノ伴奏に合わせ、「仰げば尊し」「蛍の光」「校歌」を元気よく斉唱し、一連の儀式を終えました。卒業生の方で見る、教えを受けた先生方に、「ありがとうございました」と別れを告げ、順に退場していきました。後ろにはいつも盾となってくれた保護者が控えています。「お父さん、お母さん、ありがとう」卒業生たちの声が高らかに響きわたりました。保護者席を通り過ぎ、不安と希望に満ちた将来への道を進んでいくように、会場を後にしました。



その後、ピアノ伴奏に合わせ、「仰げば尊し」「蛍の光」「校歌」を元気よく斉唱し、一連の儀式を終えました。卒業生の方で見る、教えを受けた先生方に、「ありがとうございました」と別れを告げ、順に退場していきました。後ろにはいつも盾となってくれた保護者が控えています。「お父さん、お母さん、ありがとう」卒業生たちの声が高らかに響きわたりました。保護者席を通り過ぎ、不安と希望に満ちた将来への道を進んでいくように、会場を後にしました。

